

エビデンスに基づく政策立案 (EBPM) の推進に向けて －医療の経験からの示唆－

国立国会図書館
田辺智子

2020.5.16 日本評価学会 社会実験分科会2020研究報告会

1

投稿論文の概要と結論

- 医療分野におけるEBMやエビデンス普及の取組を概観。EBPMへの示唆を抽出。
 - ① EBMでいうエビデンスとは、医療行為の**有効性評価**
 - ② エビデンスは**社会全体**で蓄積し共有すべき
 - ③ エビデンスを「**つたえる**」役割が重要
 - ④ エビデンスは**意思決定に用いられる情報の一つ**
 - ⑤ エビデンスは必ずしも容易に普及はしない
 - ⑥ 有効性評価と指標による評価を適切に併用すべき
 - ⑦ 政府にはEBPMの**インフラ整備**が求められる

2

EBMにおける意思決定

※医療といえど、エビデンスだけで機械的に意思決定できるわけではない。エビデンスは意思決定に用いられる情報の一つ。



3

今後の課題／各関係者への期待

<学会・研究者>

- 信頼性の高いエビデンスの創出
- 既存の研究・エビデンスの整理

<政府>

- EBPMのためのインフラ整備
(特に「つくる」「つたえる」側面)
- まずは既存のエビデンスの活用から

4